

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173200585		
法人名	有限会社美深シルバー支援		
事業所名	グループホーム びふか		
所在地	中川郡美深町南町25番地		
自己評価作成日	平成24年9月28日	評価結果市町村受理日	平成24年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・春～秋にかけての施設の畑で採れた野菜を使った食事。スイカ、とうもろこし等のおやつ。

・利用者様本位の自由な暮らし。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijokouhyou/informationPublic.do?JCD=0173200585&CD=320&PCD=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号
訪問調査日	平成24年10月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

美深町駅から名寄方向の緑あふれる住宅地にゆったりと建てられた平屋建てのラベンダー色の2ユニットの事業所である。広々として、陽がさんさんと入るホームは、利用者も職員も笑顔にさせる明るい雰囲気になっている。利用者も職員も殆ど地元で、地域においては長い馴染みの関係が構築されている。運営推進会議では、町役場の介護保険担当者も参加するなど行政との連携も強く、認知症ケアについては地域の中心となって理解と周知に取り組んでいる。また、毎日の散歩や買い物など日常的な外出支援が多く、利用者・家族の満足度の高いケアサービスを実践している。季節の食材を活かした食事は、利用者の毎日の楽しみでもあり、笑顔が絶えない雰囲気づくりに職員が一体となってチームケアに取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎朝、3つの理念をその日のスタッフで読み上げ利用者との触れ合いの中で戒めています。</p>	<p>理念を、事業所内に掲示し、職員は毎朝ミーティングで唱和して、実践につなげている。また、パンフレットにも明示して、利用者・家族にも周知している。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>外出時(美容院・行燈行列)や散歩のとき、お花が咲いている家に立ち寄り色々な話をして交流している。</p>	<p>町内会は、事業所として加入しており、ホーム主催の行事に町内の方も参加し、地元の長い付き合いもあり日常的に地域との交流が盛んである。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>施設見学や実習生の受け入れを行っています。</p>	/	/
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域住民・家族会代表・民生委員・他施設行政など多くの方の参加があり意見や要望はサービス向上につながっている。</p>	<p>地域の方や家族、民生委員・役場・特養職員など多数の参加で、事業所の報告に参加者からの意見を検討しサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>町の担当者(ケアマネ・保健師・社協)との意見交換を行っている。</p>	<p>運営推進会議に毎回美深町の介護保険担当者が参加しており、情報交換をしながら連携に努めている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用者個々に合わせた処遇対応に努力しています。</p>	<p>身体拘束のしないケアの実践については、職員が外部研修に参加して、参加した職員から伝達研修を行い共有して、ケアの実践に活かしている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会に参加するなど職員に学ぶ機会を設けている。利用者に対して、心のこもった言葉、気遣いに努めている。</p>	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用した入居者がいたため職員共々、とてもよい勉強になりました。成年後見制度の研修などがあればぜひ参加したい。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に時間を取り、丁寧に説明している。利用料金、起こりうるリスク、重度化、看取りについての対応方針、状態の変化等により解約に至る状態のときは家族とよく話し合っている。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会、手紙などで報告している。訪問時に必ず家族からスタッフが話を聞けるように、日常の状態を話し、意見や要望をいただいている。家族から意見があった場合には運営に反映している。	家族会があり、年一回七夕にイベントも兼ねて開催して意見を聞いている。意見箱も設置しており、家族の意見を聞きながら運営に反映している。また、担当者からの状況報告の手紙を月一回送付している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内・外での職員とのコミュニケーションを大切にしている、その中で要望・意見を聞き、取り入れるよう努力している。苦情は把握していない。	管理者が職員に随時声掛けして、コミュニケーションを図っている。運営に対する意見などは毎朝のミーティングで打合せして反映させている。	代表者や管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にして、意見や要望を運営に反映して活かしているが、定期的な会議などを活用して積極的に意見を聴く機会を設け、後継者育成に期待したい。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎日の業務連絡や施設に来ていて、職員の勤務状態の把握に努めている。職員の資格取得や外部研修などの支援を行っている。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対してはマンツーマンで利用者との関わり方、日常生活について指導している。事業所外の研修には日時・場所を検討し、参加できる機会を設けている。研修後は他の職員にも閲覧できるようにしている。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと交換研修を設けている。他のグループホームの研修生の受け入れなども行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	本人の気持ちを受け止めることを大切に不安を理解するよう努めている。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	ご家族が求めているものを理解し、これまでの経緯についてゆっくり聞くようになっている。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	初期段階でサービスの場に徐々に馴染み安心、納得しながら利用できるよう支援している。		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	支援する側、される側という意識を持たず和やかな生活が出来るように場面づくりや支援をしている。		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	本人の日頃の状態を来訪時や毎月の手紙で報告し、情報の共有に努め、本人と一緒に支えるため家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	行きつけの美容院利用やお盆にはお墓参りなどの要望に体調を見ながら可能な限り支援している。	利用者が殆ど地元のこともあり、職員同行にて馴染みの美容院や図書館へ行ったり、また、家族同伴でお墓参りなど本人の意向に基づいて可能な限り対応している。	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	みんなで楽しく過ごせる場面づくりをするなど利用者同士の関係を損なわないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後もお見舞いに行くなど関係を大切にしている。また、家族からの相談にも対応している。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞き対応している。困難な方には家族から情報を得て、職員一同で検討している。	担当者が中心となり、一人一人の思いや意向を把握して、職員全体で共有して日常のケアを検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人らしい生活が出来るよう、情報の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとり、毎日の心身状況に合わせた支援を心掛けている。介護日誌を活用し状況の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の気持ちを把握して現状に合った安心安全な生活が過ごせるよう介護計画を職員一同で話し合い作成している。	本人や家族から要望を細かく聞いて、職員で話し合い介護計画を作成している。また、モニタリングは担当者に確認して、介護記録をもとに毎月実施している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個々の行動、気づき、健康状態を介護日誌に記録して、職員間で情報を共有し、現況に合った介護計画の評価、見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いつでも本人、家族の状況に合わせた、ニーズにこたえられるよう、柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々のニーズに合わせた送迎や民生委員、ボランティアの協力をお願いし、利用者の喜びに繋がるよう工夫している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診、本人、家族の希望の病院の利用など適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者が殆ど地元のこともあり、かかりつけ医が事業所の提携病院でもあり、かかりつけ医がそのまま継続して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の心身状況や体調の変化など職員一同で情報を共有し、早期発見、受診できるように努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合はお見舞いや医療機関と情報交換をまめに行い、安心して治療、早期退院ができるよう努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のあり方については、現状を家族に説明、早期に十分話し合いを持っている。本人、家族の意思を尊重し対応している。	重度化や終末期については、入居時に説明し、どうするかに対応を決めている。地方のため、医療の連携が十分ではないので重度化は医師の指示に従って、ケアの連携をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応に備えて職員一同で常に話し合い、適切な行動をとれるよう努めている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定しての避難訓練や連絡網による情報伝達の確認などを行っている。推進会議でも取り上げている。	スプリンクラーや火災通報装置などを設置し、夜間想定避難訓練など対策を行っている。1階のユニットなため、緊急時の避難も比較的容易である。農作物など食材の大量の備蓄がある。	
、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーを尊重した言葉かけを心掛けている。	人格やプライバシーを尊重した言葉かけに努めている。特に、トイレの介助などの声掛けに気を付けている。新任時には研修会に参加している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを多くし希望を伝えやすい環境づくりに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活を尊重し、できる限り希望に添った対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合う服装をして頂いたり、希望があれば理・美容院への送迎も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力に合わせて調理の下ごしらえや食後の後片付けを一緒に行っている。	季節のものを取り入れたこだわりのメニューを心掛けており、職員と一緒に利用者が調理や片付けをしている。誕生会やお花見などの特別メニューは利用者の楽しみである。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握するほか、細かく刻むなど食べやすく工夫も行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりに対して声掛けや必要に応じた介助を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人では困難な方もその方の行動、時間を見計らって声掛け誘導し、トイレでの排尿排泄を支援している。	夜間以外は一人一人の排泄パターンを把握した声掛け誘導をして、トイレでの自立した排泄支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄の状態を把握して飲み物、運動、薬など本人に負担のかからないよう予防に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの心身の状態に配慮して個々の希望に添って気持ちよく笑顔で入浴できるように言葉をかけて支援している。	週2回以上の予定で入浴しており、毎日入浴する人もおり、一人一人の心身状態が気持ちよく日々過ごせるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣、その時の状況に応じて声掛けをして気持ちよく休息したり、安心してぐっすり眠れるよう心掛けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの薬の目的、副作用、用量、用法を理解して日々の体の変化に気を付け支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事、洗濯物、食器の片づけなど無理のないよう会話をしながら楽しく張り合いのある生活を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの希望に添って散歩に出かけ草花を見て会話したり、地域のイベントに出かけられるよう支援している。散歩に出かけられないときは屋外に出て気持ちの良い空気を吸って会話をしながら明るい笑顔になるよう努めている。	天候の良い日は、殆ど職員同行で散歩しており、買い物や美容院など個人の希望に合わせて対応している。春は白鳥見学、夏は美深温泉、秋は紅葉狩りなど行事の外出も多く楽しみも多い。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方もおり、本人の希望に応じて買い物に同行したり、希望のものを買うことができるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも掛けることができるようにしている。手紙のやり取りも自由に行われています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	草花や生け花、自作の作品を飾るなど快適に過ごせるよう工夫している。	事業所の周りは、畑など緑で囲まれ、陽がさんさんと入るゆったりとした広い空間で、風通しもよく、季節の飾りつけも工夫しており、利用者それぞれが自分の座る場所があるほど共用空間は居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの各所に椅子やソファがあり誰でも自由に過ごせるように工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個人が馴染みの家具や生活用品を持ち込んで本人らしい居室となっている。	利用者が今迄使用していた家具や生活用品を持ち込んでおり、備え付けのクローゼットは大きめで収納も多く、扇風機やエアコンなども細目に配慮しており、居心地のよい住まいである。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい物の配置や名前の掲示で少しでも自立につなげ、安全で安心の生活が出来るよう工夫している。		